



香葉

第8号

通算39号

関東学院女子短期大学

香葉会

発行人 山口佳子

代表 横浜市金沢区

六浦東1-50-1

直通・FAX 045-787-0678

E-mail: kouyoukai@nifty.com

URL <http://homepage3.nifty.com/kouyoukai/>

おりょうさんを訪ねて

- 日程 平成22年10月2日(出) (雨天決行)
- 時間 午前10時集合～午後1時(解散予定)
その後自由散策(参考コースを用意しています。)
- 場所 京急大津駅(京浜急行線) 集合
- 会費 1,000円(保険を含む)
- 申し込み方法
香葉会事務局へFAX・往復はがき・Eメールにて、準備の都合上9月27日までに必着。
FAX 045-787-0678
Eメール kouyoukai@nifty.com

坂本龍馬ブームの最中、ゆかりのおりょうさんのお墓と等身大木像・座像のある信楽(しんぎょう)寺・旧宅跡の碑、更に足をのばして開国一五一年ペリー公園・記念館と明治に思いをはせて散策。
井上吉隆氏(燦葉会(大学)経済学部卒)に案内をして頂けることになりました。
是非ご家族・お友達をお誘い合わせの上、ご参加下さい。

散策企画No.9

おりょうさんを訪ねて



来年の干支のうさぎを描いて、年賀状作りを楽しみませんか。かわいいうさぎ、力強いうさぎ、希望に満ちたうさぎ等々。あなただけの一枚を描いてみましょう。
ハガキ、筆、顔彩(絵の具)は用意しますので、お気軽にご参加下さい。初心者歓迎です!

日本画講座(年賀状作り)

日本画講座(年賀状作り)

- 講師 織田明美(家12回卒)
- 日時 平成22年11月17日(水)
- 時間 午前10時～午後12時
- 場所 香葉会室
- 会費 1,000円(材料費含む)
- 持ち物 エプロン・タオル
筆・顔彩をお持ちの方はご持参下さい。
- 申し込み方法 同上
- 申し込みは11月8日(月)まで

山手西洋館散策

- 日程 平成22年12月11日(出)
(雨天決行)
- 時間 午前10時集合
- 場所 港の見える丘公園入口
- 会費 1,000円
(資料・保険代など)
- 申し込み方法 同上
- 申し込みは12月1日(水)まで

建築家で絵画が趣味である精木先生のご案内での西洋館めぐりもシリーズ三回目になりました。
今年もクリスマスマスコレーションや夜には輝くイルミネーションはどんな夢を私達に与えてくれるでしょう。期待がたかまります。
西洋館見学は靴を脱いで備え付けのスリッパにはきかえて見学します。

定例散策

山手西洋館散策



陶芸教室

- 講師 佐々木まどか先生
- 日時 成形: 平成22年10月30日(出) 10時～12時
色付け: 平成22年11月13日(出) 10時～12時
- 場所 関東学院大学
室の木7号館(陶芸棟)
- 会費 3,500円
- 持ち物 エプロン・タオル
- 申し込み方法 同上
- 申し込みは10月18日(月)まで

世界にただひとつ、自分だけの陶器を作ってみませんか。土を手にするといういろいろなイメージが浮かび陶芸の魅力を満喫出来ると思います。
今年も開催します。ふるってご参加下さい。
(色付はお願いできます。)

陶芸教室

へのお誘い

会長挨拶

山口佳子(国1)



皆様 如何お過ごしでしょうか、酷暑はもう過ぎましたでしょうか。

一二五周年ということで様々な行事がありました。

忘れてしまった学校の歴史、学校が輩出した各分野の人々、また講演会をしていただいた方々など多くの方々の努力と協力があり、学校、学生、卒業生、学校に関わる多くの方々が一体となったように感じております。詳しくは一二五周年行事特集をお読みいただければと思います。

香葉会は協力事業をKGU関内メディアセンターで行いました。陶芸教室、日本画教室の作品、卒業生の作品や精木先生による講演会「横浜三塔物語」など好評のうち終了しましたことは前号でお知らせしたとおりです。

また多くの短大卒業生に募金のご協力をいただき大変感謝いたしております。

今学校は少子化に伴う学生数の減少に苦慮しています。関東学院も例外ではなく学科の併合等、時代の要

求にあった勉強の方法を探って学生が満足のゆく環境を整えるべく頑張っています。毎週発行されています理事長、学院長、常務理事、大学長の書かれる「we can do it!」がその一端を表わしています。

短大改組の人間環境学部でも追浜商店街と一緒に追浜ワインを売り出したことは周知のかたも多いと思いますが、オリーブクッキーと命名されたお菓子は一二五周年の講演者のおみやげとして喜ばれたということです。

卒業謝恩会での短大香葉会からの賞「香葉賞」を実現してから三年になりました。人間環境学部卒業生が社会に巣立っていく様子を大変嬉しく拝見しています

私達短大卒業生は、学校が頑張っていること、後輩である人間環境学部にもこれからの支援をおくっていく事を考えています。

平素、皆様からの香葉会の活動へのご協力にいつも感謝しています。それと同時に活動への参加、また「香葉」への掲載のご希望もお待ちしております。



オリジナルクッキー

人間環境学部健康栄養学科 江田節子教授 発案のオリジナルクッキーが関東学院大学の購買部とメディアセンターで販売しております。

オリーブの身・オリーブオイル・小松菜(横浜地産)・プレーンクッキーの4種類がセットされています。

お土産やおやつとしていかがですか。



山手西洋館散策に参加して

測上 龍美(家10回)

師走にしては暖かい十二月十二日(土) 同級生四人で桜木町駅前より「赤いくつ」号のバスに乗り「港の見える丘公園」へと向かい、車中から開港一五〇周年記念会場の巨大なロボットの蜘蛛を見たりしながら集合場所へ着きました。案内をして下さる精木勇先生のすてきなスケッチ入りの資料をいただき散策に出発。すっかり短大生の気分になりました。

館。緑の樹木に囲まれたエリスマン邸、スペイン風ベリックホルの豪華なXマス料理の展示と飾り。ゆったりとしたクリーム色の外観で、とんがり屋根のある米国風外交官の家、簡素な旧司祭館等と次々に感動し、お国柄や個性のある建物の歴史的な価値を感じながら貴重な一日を過ごしました。

ブラフ18番館にて



バラ園を通り赤瓦と白壁の旧英国領事公邸へ、室内は白いツリー、明るい陽ざしにキラキラ輝くガラス玉でのXマス飾り、その美しさに圧倒されました。次に、三連アーチの藤棚と正面からは二階建、後ろからは三階建の南スペイン風一一番館は、赤を基調としたXマス飾りに見とれ、薄緑色の優雅な山手資料館、ポーチの円柱がギリシャ風の二三四番

一二五周年記念行事特集

二〇〇八年十一月オール関東でベリックホールにおいて一二五周年記念のキックオフに始まり、多くの記念行事がスタートしました。と同時に募金活動も始まりました。香葉会会員からの尊い寄付金一四九万二千元（平成二十二年六月三十日現在）を頂きました。皆様からのご協力ありがとうございました。

展示会と精木勇先生の特別講演会

精木勇先生（元関東学院短期大学非常勤講師）特別講演会「横浜三塔物語」

香葉会主催の一二五周年記念展示会が平成二十一年一月十七日～二月十四日まで開催され、沢山の方々にご来場を賜り、無事に終了する事ができました。ありがとうございます。その締め括りとして、作品展示にもご協力頂きました。精木勇先生の特別講演会が開催されました。「横浜三塔物語」という横浜のキング・クイーン・ジャックの三つの塔にまつわるエピソードを始め、横浜の幾つもの歴史的建造物について大変貴重なお話をしてくださいました。好きな横浜がもっと好きになるそんな講演会でした。

現在、関東学院公開講座では、精木先生の講座が予定されており、今年度は、九月三十日より全五回で「アテネ・ローマそしてヨコハ

マ」というタイトルでの座学と野外学習です。詳細・お申し込みにつきましては、関東学院生涯学習センターへお問い合わせ下さい。

【関東学院生涯学習センター】
電話：〇四五―七八六―七八九二
ホームページ
<http://univ.kanto-gakuin.ac.jp/>

記念音楽祭

九月二十二日（火）

燦葉会主催の記念音楽祭が神奈川県民ホールにおいて開催されました。OB会・OG会・現役と、一部はハワイアンあり、コーラスあり、バンドありと楽しく盛り上がりました。二部はわが関東学院のOBである寺内タケシとブルージーンズの演奏。若い人には新鮮で年配者にはなつかしい曲が多く楽しいひとときを過ごしました。

祝祭コンサート

十月七日（水）

県民ホールにおいて祝祭コンサートが開催されました。オール関東（卒業生、現役生、PTA等）で結成された合唱団に感激を覚えました。

一二五周年記念式典

十月十日（土）（パシフィコ横浜）

内藤幸徳理事長からの式辞にはじまり、森島牧人学院長、神奈川県知事松沢成文様、小田原市副市長加部裕彦様、日本私立大学連盟常務理事・上智大学学長石澤良昭様、キリスト教学校教育同盟理事長・学校法人同志社理事長野本真也様等多

くの方に祝辞を頂きました。その後各種称号贈呈がありました。場所を移し、ロイヤルパークホテルで祝賀会があり、新理事長飯田嘉宏氏と内藤幸徳理事長とのかたい握手が交わされ閉会となりました。又なつかしいエリオット先生とも卒業以来お会いし、流暢な日本語で話しが出来ました。オール関東の各関係者が集まり、思い出深い一日となりました。

関東学院三つの源流を訪ねて

わたしたちは確かに関東学院に学びましたが、学校が誰の思いで、誰の手で創立されたのかを詳しくはわかっていないまま、殆どの方は卒業してしまっただけではないかと思われまます。一二五周年を機に行われた行事をたどってみますとその歴史を知ることが出来ます。

ポルトタワーでの礼拝から今日のプログラムは始まりました。十月十二日それはアメリカフィラデルフィアに生まれバプテスト教会牧師として一八七九年に来日し現在の関東学院の源流となる横浜バプテスト神学校を設立したアルバート・アーノルド・ペンネット先生の召天記念日にあたります。短大のあった三春台校舎である私立関東学院の設立者ペンネット先生、関係者のご努力によりペンネット・テナー両ファミリーをお迎えすることができ外人墓地での墓参・献花が行われました。その後、やはり事業の一環となります記念碑を見学、第一の源流「横浜バプテスト神学校 発祥の地」横濱山手七十五番地）に顕彰記念板、

第二の源流「東京中学院 発祥の地」(築地居留地四十一・四十三番地跡)そして第三の源流「中学関東学院 発祥の地」(三春台校地)があります。それぞれ記念碑のある場所に立ちますとその時代を生きて教育に携わった人々、教育を受けた人々の心の軌跡に自然と思いを馳せてゆきます。参加者全員で記念写真を撮影解散となりました。(写真は5ページ参照)

ホームカミングデー

十一月八日（日）

人間環境学部のエテルニテ四階にて、多くのなつかしい教授に参加していただいて人間環境学部の卒業生と短大の卒業生との合同でのホームカミングデーが行なわれました。初めての試みでしたがなごやかな会となりました。

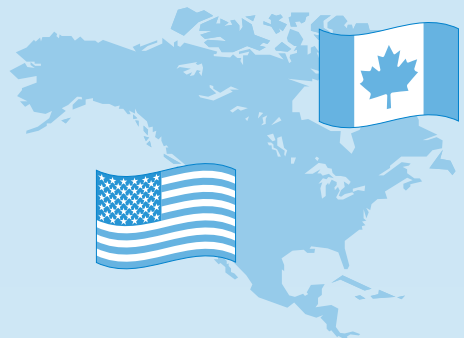
午後からはペンネットホールにおいて小泉純一郎氏の講演会が満席の会場で開催されました。

125周年記念講演会

小泉純一郎氏より講演料が、関東学院同窓会に寄付されました。関東学院同窓会では、記念になるもの、八景の木の桜の木を植樹しました。毎年、春には桜の花を楽しみます。



海外寄稿



宮松 眉美 (旧安藤) (英文12回)

関東学院女子短大を卒業したのが一九六三年、今から四十七年前になります。大好きな英語が勉強できると、うきうきと入学したのがその二年前。当時としては画期的なクラスがたくさんありました。残念ながらお若くして鬼籍に入られた柳生先生、松本寛先生とアメリカにお帰りになったエリオット先生の三人に指導された十人前後という少数の現代アメリカ文学のゼミのクラス、小滝先生、小玉先生をはじめとした英米の大学で学位をとられた先生方の奥深い講義など今考えてもすばらしいものでした。

時事英語のクラスで始めて読んだNewsweekはそれ以来、今でも毎週、眼を通して世界情報に接しています。関東学院独特のシェークスピア劇にも大根役者ながら出演させていただきました。

短大卒業後、二年間学んだ横浜市立大学の英文学科の教授たちはほとんどが東京大学をはじめとした官立大学出身の方たちでしたが教え方、内容、しゃべる言葉も何か古めかし、書物の中だけで学ばれたような感じがしました。若く、つたない身でも「文学って言うのはその文化に浸りこまなければわからないんじゃないかな」と思ったこともあります。大学卒業後、幸運にもアメリカで学ぶチャンスを得て、ペンシルヴァニア州の私立の大学で日本語科の助手をしながら二年間勉強できました。短大時代に耳から入る英語を徹底的に訓練されたためか、日常生活の言葉に事欠くこともなく、二二〇〇人くらいの在校生のうちただ一人の日本人として楽しく過ごしました。当時は外貨制限があり、自費留学などではできない時代でしたので、どこ

へ行っても日本人に会うことはまれなことでした。

帰国後、英語を使う職業をいくつかしましたが、五年ほど従事した早稲田大学国際部のアメリカ人交換留学生のカウンセラーの仕事は大変に勉強になりました。年齢的には十歳くらい下でも、実際経験は私よりずっと年上に見える学生たちを相手に日本の習慣、ホームステイをしている家族との付き合い方などを指導するのは、自分のアメリカでの生活を鑑みながらしても文化、考え方の違いが大きく難しいことが多かったようです。

機会を得て、一九七五年にカナダのトロントへ移住してきました。こちらでは主に日本語を必要とするカナダの会社を選びました。鉱山会社、産業ゴム会社を経て、一九八〇年代の終わりには、日本の自動車産業のアメリカ・カナダ現地化に伴って増加した、当地の特殊部品会社の営業部に就職し、運転以外の自動車技術の経験はまったくのゼロでした。必要に迫られてその場で学びながら、日本人技術者とカナダ人技術者が喧々囂々と話すエンジン部品技術のやり取りを通訳したり、工場を回って実際にエンジン設計や試験をしているところまで話し合ったりという仕事でした。

年に三、四回ずつ日本を訪れることができたことも幸せなことでした。この会社は出張に対しては大変に好意的で、日本訪問中は週末に有給休暇を追加して横浜の母と会ったり、友達とも旧交を温めるチャンス

に恵まれました。

四年前に早期退職をし、これからはゆっくりと旅行をしたり、庭の花を楽しんだり、野菜を作ったりしたいと考えておりました。

二年ほど前に連れ合いがアメリカのヴァージニア州で小さなスポーツ・カーを組み立てる工場を設立したため、今はカナダとアメリカの二つの自宅の間を六週間置きぐらいい行ったりきたりの生活になってしまいました。

同じ英語を話す二つの国ですが生い立ちが異なるためか国民性が違って興味があります。

簡単に言えばアメリカは英国からの独立を勝ち取って英国を切り離れた国。

カナダは(フランス語を話すケベック州はさておいて)つい先ごろまで英国国王を頭としてきて、今でも形だけとはいえカナダの首相が、任命する女王の代理人が首都のオタワと各州の州都に居て、国会の開始の挨拶をしたり、主な行事に出席して花を持たせる役をしたりと英国と密接な関係にあります。

アメリカ人の自信満々で「私のすることは正しくてみんなのお手本になるんだ」という態度に対し、カナダ人は何をすることも一歩下がって「あなたはそう思うでしょうが、私はこう考えるんですが」といった何か慎ましやかなところがあります。アメリカの自宅のあるヴァージニア州の南に位置するノース・キャロライナ州は南北戦争のときの反奴隷解放派の南部に属していたためか、

A: 人はいいんですけど…

B: 中身もいいですよ!

〈関東学院大学の学生は〉

御園 和夫 (みそのかずお)

文学部英語英米文学科教授(1965年〔昭和40年〕、
関東学院短期大学第2部卒業)

関東学院大学の学生さんは、人はいいんですけど…、と言っていたあの企業の採用担当者がいた。ヘッドに、いえ、頭にカチンときたので、即座に、中身もいいですよ、と説明をしたことがある。KGUの学生はよい、いや、とてもよい、おおかたの学生は、というのが私の感想である。

昔の学生はよかった、という先生がいる。昔って、いつごろのことを言っているのだろう。昔といえ、私は一九六九年に関東学院女子短期大学に専任で赴任した。これは元学長の小玉敏子先生のおかげである。短大で九年教えて、十年目に大学の文学部に移って今日を迎えている。短大時代は林先生(当時の学長)に大変お世話になった。今思うと、学校経営のプロという感じがする。学者であり、運営力もある先生はそうはいない。

短大時代の学生も、現在の関東学院大学の学生も基本的には変わっていない。変わったのはむしろわれわれ教員側と時代であろうか。こんなことをなんとなく考えるようになった時、偶然にも香葉会の葛城さんにお目にかかる機会があった。前会長の古城房子さんも同席されていた。お元気だった。葛城さんには、その昔、数回会ったのを覚えている。三十年以上前になるだろうか。昔とちっとも…変わってはいったものの、すぐに分かった。中身は変わっていないようだった。(外身もあまり変わってはないと思う、ような、気がして、きた。)

今回、葛城さんの差し金(?)で、御園に「関東学院大学の学生」について何か書いてもらえ!ということになったらしい。学生気質ですが、「人はいいのですが…」に私が続くとすれば、「自分以外のことにはあまり一生懸命にはならない」という側面があるようにも思える。例えば、最近の学生で海外に出かける者が少ない。海外に興味が無いのだろうか。私は相変わらず国内はもとより海外に通っている。最近は「オ」の付くところによく出かける。オーストラリア、沖縄、それと…お銀座? 香葉会は不滅です!

おすすめサイト…
<http://english.evidus.com/magazine/omoshiro>

今でも人種偏見の考え方がちらちらと見えることがあります。そんなところですが、オバマ氏が大統領になってからは政府の要職につく有色人種、女性の数も相当に増え、テレビの広告に出る有色人種の数が数段に増え、だんだんにそれが普通に見えるようになって来ました。いろいろな意味でChangeは着々と進んでいるようです。

ふと考えると、今このような生活を楽しめるのも二年間という短い間に身についた短大時代の教育が根底にあるからではないかと思えます。私にとって一番すばらしかったことは、どの先生方も「師」である前に「人間」であるということを示してくださったことです。

シェークスピア劇の練習のための合宿で同じ釜のご飯を食べ、せんべい布団に寝て朝早くから夜遅くまで発音を直してくださったり、演技をつけてくださったり、冗談を言い合ったりと、演壇に立って講義をするだけの関係とはまったく違った接し方をしてくださいました。社会に出てからも顧客の「偉い人」や会社の上役に接するときにまったく怖気ずくことなく対等に話し合える基盤となったのではないかと思います。

大切なのは接する相手の能力、知力や人間性であり、立場や肩書きではないということを知らず知らずのうちに教えてくださっていたのです。よき時代に、たくさんよき師にめぐり合えたことは大変に幸せなことだったと思います。

源流を訪ねて (P3より)



↑ ベンネット・テンネー両ファミリー



↓ 横浜バプテスト神学校発祥の地



← 関東学院中・高等学校旧館前



故下田先生記念礼拝に参加して

佐藤 美代 (家10)



二〇一〇年五月三日(月)、先生が天に召されて一年が早くもすぎました。

人間環境学部のチャペルで、沢山の方々により、静かなうちにも、あたたかく、心のこもった記念礼拝のときをもつことができましたことを感謝いたします。

沢山のことを背負っても、優しく穏やかに接して下さった先生の、お好きだった讃美歌、四九四番を学生時代を思い出して歌わせていただきました。

最近、教会に集いながら、この時代に、キリストに従ってすごすことをどの様にしたらよいか見出せないまま日をおくっておりました私の元に、香葉会より記念礼拝のお便りが届きました。

歳月を重ね欠席させていただく会

も多くございましたが、今回は何かに促されて、参加させていただきました。

その中で、先生の残されたお言葉に、「教会には、礼拝に出ることです。他に何かがありますか」。今まで考え、迷っていたことが、遠くに去ってゆきました。教会に何を求めていたのでしょうか。それより礼拝に出ることを大切に。私の行く教会の牧師にそのことをお話ししました。

「そうです、それが一番大切なことです。」と即答なさいました。母校のチャペルに先生が導いて下さったのです。感謝の記念礼拝でございます。



した。

先生のご友人から、昔から先生は、鉄道と模型が大好きで生涯の友とされていたとお聞きいたしました。学生時代に知っていたら、と少し残念な思いでございます。

いづれの日にか、そちらでお目にかかるかも知れません。その時は、どうぞ機関車のこと、鉄道のこと、沢山お話をきかせて下さいますようお願いいたします。



▶故下田先生からいただいた寄付で短大の碑の後ろに、オリーブの木を植樹いたしました。(室の木校地図書館棟横に碑があります)

田浦梅林散策

編集部



二月十三日(土) 小雪が降る寒い日となりました。春まだ遠しの梅林。参加者も温かなコートに身を包み、春を探しに田浦の丘に登りました。梅林祭りには少し早い日程でしたが、寒さもあって行き交う人はまばらでした。それでも、早生の梅は満開のものもあり、春を感じることが出来ました。

お弁当持参の初の試み、小雪の中での場所探し、キャンプ場にある建物に身を寄せる事ができ、おしゃべりとお弁当に楽しい時間を持つことが出来ました。



神様の守りの中で

関東学院六浦幼稚園
鈴木 直江(幼5回)



私は、関東学院女子短期大学幼児教育科の五期生です。高校生の時に子ども達が好きで子どもと一緒にいる時が一番自分らしくいられると感じ、幼稚園・保育園の先生を志しました。

一九七七年、本科に入学した私にとって美術工芸・幼児体育・音楽(ピアノ・声楽)・小児保健・健康言語・保育原理・リトミック等の専門的な学びは、その奥深さにワクワクしました。

また、先生達が話して下さる子ども達とのエピソードに心が動いた事をいまだに覚えています。ただ、授業の時間数が高校の時と同じ位朝から晩まであり、それは少々辛いものではありました。でも、私にとって短大時代はとても充実したものでした。

二年間で多くの学びと保育者になってから必要な学ぶ意欲をたくさん培われた事を、本当に感謝しています。

その後、関東学院幼稚園に就職し現在も関東学院六浦幼稚園(名称変更)におります。

幼稚園は、私の就職した一九七九年に現在の場所に移りました。子ども達を連れてよく散歩に行かせていただいた中グリーン(通称)には、今も子ども達をつれて行き鬼ごっこをしたりかくれんぼをして遊んでいます。

私が勤めて三年目に関東学院幼稚園は短大付属幼稚園に組織変更し、ますます幼児教育科とのつながりが強くなり多くの実習生を受け入れることとなりました。この出会いは、私にとって自分の保育を見つめ直し、子ども達が様々な大人と関わって育っていくメリットもデメリットもある事を感じ、何が大切なのかを考えるよい機会となりました。

また、多くの子ども達との出会いの中で私自身が自分の中にある枠組と直面し、何度もそれを壊

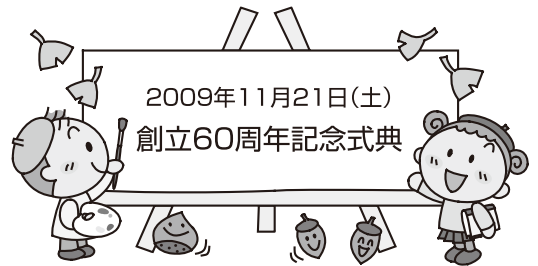
され抜けていく事が出来ました。

現在、私は主任として三歳児のクラス担任として子ども達に関わっています。

その中で、子ども達を取り巻く環境(地域の崩壊・子育ての孤立)の変化によって幼稚園の担っている役割が大きく変わってきた事を痛切に感じています。

『いったい、幼稚園で何ができるのか』を模索している日々です。地域とのつながりや子育て支援、子どもの発達の支えなど、考えられる事を実行していくしかありません。子ども達は遊びの中で多くの事を学び、心や身体を育んでいます。子ども達の大切な遊びを保障し十分に充実できるようにする事、また保護者の方に子どもの育ちを伝え共に喜べるようになる事を願っています。

本当に足りない者ですが、神様に守り導かれてこれからは子ども達と関わっていききたいと思えます。



一年半振りのオリーブの会

安部 則子(家12回)



梅雨のうっとうしい時期に...と思いましたが、そんな時こそ皆と楽しく!と思う銀座での希望もあり六月十日

二日(土)、銀座「日・月・火」で開催。当日は暑い位の天候に恵まれ食事の後、全員(十三名)で歩行者天国へ銀ブラ(銀ブラの語源は銀座でブラジルコーヒーとか)すっかり御上りさん、あっちキョロキョロこっちキョロキョロ。銀座もブランドの街に変わりました。そんな中、めざましテレビのインタビューにう人もいて、いつの間にか汐留サイトへ：浜離宮を一望するホテルでお茶!カルチャーショックをうけながらも次から次へと話が弾み学生時代に戻ったような楽しい一日でした。鳥越先生は九十七才になられて、お綺麗でお元気です。斉藤さんが先生のお写真を撮って来て下さり皆で感激しました。御健康を祈る思いです。次回には是非沢山の方が出席して下さいを願っております。

クラス会・グループ会の報告をお寄せ下さい。編集部

